

モンゴルの遊牧の民「匈奴」が製鉄技術を持っていた

日本のたたら製鉄のルーツ解明につながるかも・・・



愛媛大学・モンゴル共同研究チームがモンゴルで「匈奴」の製鉄炉跡を発見・発掘調査

シルクロードとは異なるヒッタイト製鉄技術のユーラシア大陸中央部東伝の道 たたら製鉄につながるかも・・・

愛媛大学・モンゴル共同研究チームがモンゴルで「匈奴」の製鉄炉跡を初めて発見し、発掘調査した。

シルクロードとは異なるヒッタイト製鉄技術のユーラシア大陸中央部東伝の道 たたら製鉄につながるかも・・・

「鉄の起源」や「ユーラシア大陸の東西を結ぶ金属器&鉄文化東伝の道《Metal Road & Iron Road》の探求を進める愛媛大学東アジア古代鉄文化研究所のチームが日本・中国・モンゴール・ロシア・トルコの研究チームなどと積極的に共同発掘調査研究をすすめている。

その過程で 愛媛大・モンゴル共同チームが、従来は製鉄技術がないと思われてきた中央アジアの遊牧の民「匈奴」の製鉄炉跡をモンゴル国内で発見・発掘した。ビッグニュースである。

紀元前 3 世紀から紀元 1 世紀にかけて ユーラシア大陸の中央モンゴル高原に起こった遊牧の騎馬民族「匈奴」。

当時中国は「秦」「漢」の時代、この匈奴の侵入を防ぐため、万里の長城を築き、当時の先端技術ですでに大量量産の製鉄技術を確立していた「漢」はこの技術がほかに流出せぬよう、鉄官などを置き、厳しく国家統制していた(溶融鉄還元間接法)。

匈奴が南の中国と対峙する一方、ユーラシア大陸の西では 匈奴の侵入を発端とするヨーロッパの民族大移動が起こっている。この「匈奴」の爆発的エネルギーの根源は騎馬民族の「略奪」に支えられていると考えられていたが、今回の発見・発掘で《匈奴が独自の製鉄技術を有していた》ことが次第に明らかになってきた。

また、愛媛大が進めてきた中央アジアでの数々の共同調査で、紀元前 12 世紀頃 ヒッタイトが発明した製鉄技術がユーラシア大陸を東伝して、早くからインド・中国に伝わったばかりでなく、黒海・カスピ海の北岸からユーラシア大陸中央の草原を通過して、西シベリアやモンゴルにまで伝わっており、古くからユーラシア大陸の東西をつなぐ、金属器・鉄器文化伝播草原の道《Metal Road & Iron Road》があったということも次第にあきらかになってきたという。

愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター
第6回国際学術シンポジウム

鉄と匈奴

遊牧国家像のパラダイムシフト

日時：2013年11月9日(土) 13:00 開会
場所：愛媛大学メディアホール

13:00-13:15 開会の挨拶
13:15-13:35 「書言説明：鉄から語る遊牧民の歴史」白石典之(新潟大学)

第1部：基調報告
13:35-14:05 「コーラシアにおけるアイアンロードの成立と展開」村上恭通(愛媛大学)
14:05-14:35 「漢代北方防衛線と鉄」森谷一樹(中国人民大学)
14:35-14:50 休憩

第2部：フィールド調査の成果
14:50-15:10 「モンゴル国スズン・バートルク川流域の調査成果-日本-モンゴル共同研究プロジェクトの成果-」
ヒイツェレン・Ch. アマルトツブシシ・G. エレグゼン (モンゴル科学アカデミー考古学研究所)
15:10-15:50 「匈奴の鉄器」N. エルデネオチル (モンゴル科学アカデミー考古学研究所)
15:50-16:10 「匈奴の鉄生産」世田朋孝(愛媛大学)
16:10-16:25 休憩

第3部：討論
16:25-17:25 討論「遊牧国家像のパラダイムシフト」